



向陵広場

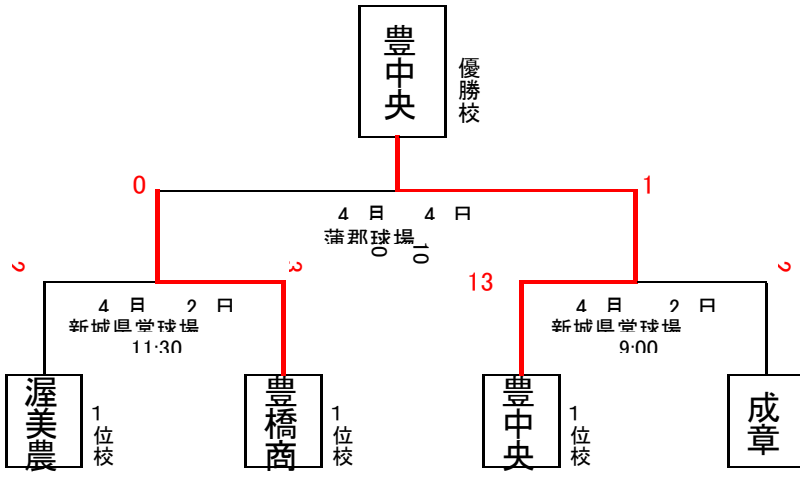
発行号 第139号

発行日 令和6年4月8日(月)

発行元 向陵編集校友会

責任者 伊藤有司 (県商10回卒)

令和6年度 春季東三2次トーナメント表



県大会出場高校

優勝	豊中央
準優勝	豊橋商
3位	渥美農
3位	成章
5位	国府
5位	豊川工

※ 各ゾーン1位校は県大会・全三河大会出場



豊橋中央が緊迫の投手戦を制した (蒲郡球場で)



準優勝の豊橋商 (同)

1点差で優勝を逃した豊橋商の田村知憲監督は「勝てる試合を落としたのは悔しい。チームで接戦を勝ち抜く勝負強さが必要。投手陣はそろっているから、打線が強くなるように強化したい。県大会は持ち味の積極性を失わず、自信を持ってシード権を取りにきたい」と語った。

(原田直樹)

試合は、両チーム先発の小栗遥大と北添兼矢の投げ合いで始まり、7回までは両者ともに堅守でゼロ行進、無失点のまま緊張感が漂う白熱の展開が続いた。8回、豊橋中央は

2死1、3塁のチャンスをつくり、牽制の間に相手守備の乱れを突いて1点先制。最終回は、継投策でエース前島史弥が抑えて優勝を決めた。また、県大会の残り2枠を争う順位決定戦は国府と豊川工科が勝ち、豊川を含む7校が県大会の出場権を手にした。結果は次の通り。

【蒲郡球場】

豊橋中央	0000000010-1
豊橋商	0000000000-0
(中) 小栗、谷興、前島	
松井(商) 北添、佐々木	
▼順位決定戦	
【新城県営球場】	
豊橋西	0000000000-0
国府	20100200×-5
(豊) 持田、畑(国) 栗下	
一 佐藤	
豊川工科	2010300000-6
核丘	000002100-3

両者ともに堅守でゼロ行進

春季東三河地区高校野球大会2次トーナメントは4日、蒲郡球場で決勝が行われ、豊橋中央が1-0で豊橋商との緊迫の投手戦を制した。

春季東三河地区高校野球大会2次トーナメント

豊橋中央がV決める



豊橋中央は小栗遥大が好投で優勝に貢献した(蒲郡球場で)

(豊) 鈴木、藤井(核) 田井戸、居谷五十枝、興儀、辻本、奥 (原田直樹)

「小栗遥大がよく投げた」

豊橋中央・萩本将光監督

春季東三河高校野球2次トーナメントで優勝を決めた豊橋中央の萩本将光監督は「好投手を相手に勝利できたのは良かった。小栗遥大がよく投げた。最後はエース前島史弥もしっかり抑えた。県大会ではゼロ失点で勝つ野球を目指す。まず夏の大会シード権(ベスト8)を目標に頑張りたい」と話した。